



第6章 ハンドラーたちとの座談会 麻薬探知犬

麻薬を防いで 25年

出席者

平井秀和（4年）	東京税関	ハンドラー
照井邦隆（6年）	横浜税関	ハンドラー
福田真希子（8年）	東京税関	ハンドラー
千葉康宏（10年）	同	育成インストラクター
中嶋厚二（9年）	同	監視官
中嶋 剛（10年）	同	監視官
石塚作次（15年）	同	管理官

（ ）内は麻薬探知犬関係経験年数

（司会）弘井得二郎 さろん・かすたむす

犬は嫌いだったのに 気がつけば…麻薬探知犬とともにもう9年

司会 本日、皆様にはお忙しい中をお集まり頂き
まこと誠に有難うございます。ご出席の方々は、ハンドラ
ー・インストラクター・いくせいしゃ育成者・かんりしゃ管理者といろいろ
ですが、全ての方が麻薬探知犬のハンドラーを経験
されております。この座談会の中では麻薬探知犬と
かかの関わりのきっかけ、麻薬探知犬との接し方、苦労
や喜び、麻薬を摘発（発見）した時の感動、世界の
麻薬探知犬はどうなっているかなど、いろいろお話
いただきたいと思います。

それではまず、自己紹介とハンドラーになったき
っかけなどをお話ください。

照井 横浜税関のハンドラーをやっております照



（照井ハンドラー）

井です。麻薬探知犬の仕事は
希望したのではなく、人事異
動で配属になりました。現在
は、麻薬探知犬コンドル号の
担当をしています。

中嶋厚 東京税関で監視官を
している中嶋です。今日は



~~~~~  
もう一人中嶋がいますが、私はインストラクターをしています。私は検査をする犬の方を担当しています。犬はあまり好きではなかったのですが、気がいたら麻薬探知犬



に携<sup>たずさ</sup>わって今年で9年目です。（中嶋厚監視官）

今はインストラクターなので

実際の担当犬はいないのですが、ハンドラーのときは、引<sup>ひ</sup>掻<sup>か</sup>くタイプのアグレッシブドッグと、座るタイプのパッシブドッグの2通りのハンドラーを経験しました。

**福田** 東京税関の福田です。今はパッシブドッグのウルフ号を担当しています。



（福田ハンドラー）

ハンドラーになったきっかけは高校のときに税関の就職説明会に参加したことです。その時、はじめて麻薬探知犬のハンドラーの仕事を知って、是非やってみたかったので税関を希望しました。実は、友達

が旅具（入国者の携帯品）の検査官を希望していて、

## 第6章 ハンドラーたちとの座談会~~~~~

いっしょ  
一緒にその説明会について行ったのです。ちょうど  
麻薬探知犬の説明をして頂いて、これはいい、机に  
座っていなくていいと納得なっとくしました。(笑) 最初は  
軽い気持ちだったんです。

**平井** 東京税関でアグレッシブドッグを担当して  
いる平井です。ハンドラーになったきっかけは福田  
さんとちょっと似ているのですが、昔テレビで「中  
村敦夫の地球発 22 時」という番組があって、麻薬  
探知犬の活躍を見ていました。実家でも犬を飼って  
いて、私も犬が好きなので、あこがれていました。そ  
して国家公務員試験を受けて合  
格して、税関に就職できて念願  
がかないハンドラーになりました。  
もうすぐ 5 年になります。



(平井ハンドラー)

**千葉** 麻薬探知犬訓練センター  
で、育成や訓練のインストラク  
ターを担当している千葉です。

福田さんと同じ年次に税関に就  
職しました。当時は動物がすご

く好きだったので、動物園の飼育係志望で公務員の  
試験を受けていたのですが、税関に就職が決まりま  
した。千葉県柏市の税関研修所にいる間に税関でも



犬を扱う仕事があることを知り、そのときから麻薬探知犬の仕事につけるように希望を出していました。最初に半年、港の取締りの仕事をしたあと、麻薬探知犬の職場に配属されました。

**司会** それでは税関に就職するときには麻薬探知犬のことを知らなかったのですか。



**千葉** 「税関」そのものを知りませんでした。(笑) 税関に就職することが決まって、犬のことは諦めて生きていこう…。そうしたら研修所にいる間に麻薬探知犬訓練センターの人が職場紹介で犬を連れてきて、デモンストレーションを見せてくれて…。



(千葉インストラクター)

**中嶋剛** 育成担当の中嶋剛です。英語が好きで外交官のような仕事に憧れていたのです。税関の面接試験の時にたまたま海の外交官という言葉聞いて、外交官になれるかかもしれないと思って税関に就職することを決めました。外国に関心を持ちつづけていたので、大学へは将来のことを思ってそんな気持ちで通いました。大学でも英語を勉強し、ずっと外国関係の仕事につきたいと希望を出していました。ところが、なぜか麻薬探知犬訓練センターへ異動となり、翌年にはパッシブドッグの将来



(中嶋剛監視官)



のハンドラーということでアメリカに研修に行くことになりました。これが外国と麻薬探知犬との付き合いの始まりです。

1993年にパッシブドッグ導入のため、アメリカへ調査に行き、以来、麻薬探知犬の調査や指導ですでに10回くらい海外へ出張しています。麻薬探知犬の仕事について11年目になります。その間に税金の<sup>しゅうのう</sup>収納関係事務や旅具検査官などを経験しました。

**石塚** <sup>かんりかん</sup>管理官という立場で麻薬探知犬の仕事をしている石塚です。1974年に税関に就職して31年目になります。その半分（15年間）は麻薬探知犬に携わってきました。今回で4度目の麻薬探知犬担当の勤務となりました。麻薬探知犬に携わるきっかけというのは、



（石塚管理官）

1979年に麻薬探知犬を導入するということで、アメリカで訓練を受けるハンドラーを募集していたのですが、残念ながら採用されませんでした。その翌年の1980年に再び麻薬探知犬への希望はどうかと

いわれ、犬が好きでしたので希望したのがきっかけでした。すでにアメリカで研修をうけたハンドラーが4名いましたので、私が国産ハンドラー第1号ということになります。(笑)

## 人間社会に貢献する犬—いろいろ

**司会** 次に麻薬探知犬の育て方などのお話をお聞きしたいと思います。犬はいろいろな面で人間社会に役に立っていると思うのですが、まず一般的な話からいかがでしょうか。

**中嶋剛** 犬はいろいろな面で社会の役に立っています。ご存知のように、目の見えない方のために盲導犬・難聴の方のため、電話が鳴ればそのことを伝える聴導犬・犯人の臭いを嗅ぎつけるなどの警察犬・災害などで瓦礫の下に埋まっている人を探す救助犬・ヨーロッパの死体捜索犬や麻薬以外にお金を探す紙幣探知犬等も活躍しています…。

**司会** お金は何のために、どのようにして探すのですか。







~~~~~

中嶋剛 マネーロンダリングといって、不法に入手したお金を運んでいるのを探すのです。お札の臭いに犬が反応するように訓練されています。ベンジンなどの火気を探す火気探知犬。あとはセラピードッグといって、精神的な安定を求める人のために病院などに行って患者が犬に^{さわ}触ることによって、心が落ち着くという効果があるということで使われている犬もいます。電話を持って来てくれるとか、^{くつした}靴下を^ぬ脱がしてくれたり、力が弱い人のため冷蔵庫を開けてくれたり、下に落ちたものを取ってくれるなどの介助犬や介護犬もいます。車椅子に乗る時に支えになってくれる、パートナードッグという犬もいます。また、こんな話も聞いたことがあります。

^{とうようびょうかんじや}糖尿病患者の甘い息、これは^{ほっさ}発作を起こす前に甘い息を出すそうですが、感知して教えてくれる犬などもいるようです。

司会 先日テレビで発作を予知してくれる犬のことを紹介していました。発作を起こす前に犬が患者にまわりついてくるのだそうです。そうしたら発作を抑える薬を飲むことで、発作が随分減ったということです。

福田 ガン発見の役にも立つと聞いたことがあります

ます。先ほどの
糖尿病患者の発
作を発見する犬
と同様に、吐く
息で分かるらし
いのです。

石塚 山岳救助
犬もあります

ね。ヨーロッパの山岳ではセントバーナード犬の首
に本当にウイスキーの樽をぶら下げさせて^{そうなん}遭難し
た人を助けるのに使用していたとも聞きます。今は
スノーモービルが発達していますが。昔は犬ソリで
した。アラスカの^{せんじゅうみん}先住民達は犬ソリが唯一の交通手
段であったようです。

中嶋剛 雪山で遭難した人を探して体を温めたり、
お酒を飲ませてくれたり、また犬ソリを引く役もし
ます。昔の^{ほくおう}北欧の話ですが、^{けっせい}血清が必要な病気にか
かった人がいまして、しかしそこまで行く交通手段
がない、そこを犬ソリで何百キロも血清をもって届
け、人を助けた有名な犬の話もあります。シベリア
とかアラスカでは今でも犬ソリはとても大切な交
通手段になっています。





麻薬探知犬として育てる・・・^{しんわ}親和が大切

司会 犬の臭^{きゅうかく}覚の能力は人間の何万倍だとかいうことをよく聞きますが、だからといって、全ての犬が麻薬探知犬の適性があるというわけではないと思います。麻薬探知犬としてどういう犬を選んでいくのでしょうか。

石塚 本来犬というのは物を投げたりすると追っかけますよね。そういう追^{つい}求^{きゅう}力とか、獲得したら離さない独占欲とか、犬によっても個^こ体^{たい}差もありますし、その中から特に意欲の強い犬（麻薬探知犬としての適性）を見つけてくるのが最初の仕事です。

司会 怠け者の犬もいるのですか。

中嶋剛 怠け者というよりも、人間にも得意分野・不得意分野があるように、犬にも同じように得^え手^て・不得^ふ手^えなものもありますので、その差ではないでしょうか。

石塚 だいたい、犬は追ったりする性格は持っているのですが、我々が見て、すぐ飽きてしまう犬、一方、いつまでも飽きることなく追っかけている犬がいます。その度合い、意欲の差だと思います。探そうとする意欲が強い犬ほど訓練に適しているとい

うわけです。

司会 さて、犬が4ヶ月間のトレーニングを受けて無事麻薬探知犬の認定^{にんてい}を受けた後、その能力を持ち続けさせる方法は？例えばパッシブドッグはお客様のいるところへ行きますが、麻薬^{かんち}を感知した場合はどのように犬を褒^ほめているのですか。お客様の前でタオルを巻^まいたダミーで、よくやったと遊んであげるわけにはいかないのでしょうか。

中嶋厚 そうですね。ダミーの引っ張り合いをするわけにはいきませんからね。犬に対する褒美^{ほうび}はダミーだけとは限りません。ダミーがなくても言葉や体を撫^なでてやるだけでも喜びを感じることはできるのです。訓練の時のように全ての場合にご褒美として、大きな声を上げてタグオブウォー（tug of war: ダミーの引っ張り合い）をしなければならないことはないのです。



親和が大切



~~~~~

**中嶋剛** 犬は遊びで、こっちは仕事ですから。遊びであることを続けさせることが能力維持ではないかと思います。

**石塚** 犬に遊びを飽きさせないということでしょうね。常に期待感を持たせておくことが大事なのです。飽きさせないようにするには日々の中で適度にご褒美<sup>ほうび</sup>をあげるようにしています。褒美をやらなくなれば期待感も薄れてしまいます。外へ出るときには、遊んでくれるのだと犬に感じさせることがハンドラーと犬との大事な関係ですね。

**照井** 同感ですね。

**司会** 犬とハンドラーと一体化しないと成果<sup>せい かい</sup>は出ないといわれていますが、犬との日常の接し方はどのようなものなのでしょうか。

**平井** 基本は犬に好きなようにさせてあげています。しかし、やるときにはしっかりとやらないと褒め<sup>ほ</sup>もしない。「お前何やってるの」という接し方をすると、犬も分かるようで。ああ何か叱<sup>しか</sup>られている、いつもと少し違うなど、ああ良くないんだな、という雰囲気が出てきます。逆<sup>ぎやく</sup>によくできているときにはしっかりと褒めてあげるのです。自分も犬を信じてあげて、お前がよく探しているのだったら俺も信じ

よう、という感じです。

犬が信じてくれると、  
こっちなんかどう？何  
かあるんじゃない？と  
指し示すと、犬も喜ん  
でしてくれます。検査  
のときは犬も自分を信  
じて、自分も犬を信じ



て検査するという心を心がけています。あと、  
普段は基本的には自由にしてあげるけど、これはダ  
メ、これは良いこと、とメリハリをつけるようにし  
ています。

**福田** 私の犬はあんまり遊ぶことが好きじゃない  
みたいです。どちらかというとダミーを<sup>かくとく</sup>獲得して独  
占して満足するタイプです。日によって気分には波が  
あります。いいときはもちろん自由にさせますが、  
明らかに意欲が感じられないときは訓練をして盛  
り上げるときもあります。少し<sup>きあい</sup>気合を入れ直させて  
使ったりします。その日その日で変化をつけるよう  
にしています。いつも<sup>いっしょ</sup>一緒にいるとどうしてもかわ  
い、かわいいということになりがちですが、あく  
までも仕事をする<sup>しえきけん</sup>使役犬ですのでメリハリをつけ



て接するように心がけています。

**司会** 気合はどうして入れるのですか。

**福田** 基本的には命令は英語ですが、叱るときは日本語で叱っています。<sup>しか</sup>結構日本語も理解します(笑)。犬も感じていると思いますよ。雰囲気がちよっと違うなあと。

**照井** 苦勞するのはこちらの思うように動かないときです。犬もすることはわかりますので、やはり叱る時は叱り、褒める時はしっかり褒めるようにしています。メリハリが大切だと思います。

**中嶋厚** こちらが怒っているような表情をすると、真面目にやらなければならないのかな、と。ハンドラーの雰囲気が結構伝わる人が多いと思います。我々はそれを「親和関係」というのですが、ペアで一緒に遊ぶということが出来てはじめてできることだと思います。最初の育成訓練のときから1対1でつき合っていくんです。この親和関係をうまくつくることができればちよっと怒っても仕事を諦めずに続けていく。その親和関係がなければ、怒ってしまえばそこで終わりですから。

## 全国から犬とともに研修参加・・・能力向上

**司会** 摘発はいつもいつもあるわけではありませ

## 第6章 ハンドラーたちとの座談会~~~~~

んが、長い間摘発がなかったりした場合にハンドラーの方々はスランプに落ちることはないかと思ったりするのですがいかがですか。麻薬探知犬を配置している、動かせているということで、密輸防圧<sup>みつゆうぼうあつ</sup>効果はあるとは思いますが。

**照井** 私が最初に配属されたのが仙台空港で3年間勤務しましたが、結局1度も摘発できませんでしたので、ハンドラーとしての力が下がったのは事実です。やはり摘発したいという気持ちは強かったので、横浜にきてから摘発できた時は本当に嬉しかったです。

**平井** 私は、今担当している犬が2頭目なんですが、2頭とも探すことがとても好きな犬なんです。最初はシェパードで、現在は、ラブラドルを使用しています。

シェパードの場合は探すのが仕事と認識していましたが、私が犬の横についているだけで無心<sup>むしん</sup>になって探してくれましたので、あ







っという間に検査が終わったという感じでした。今の犬は逆に遊ぶことが大好きで、宝探しをするように探していますが、スランプに陥ったという経験はありません。

**司会** 摘発できなくても、犬が行こう行こうと積極的であれば気が落ちることは少ないかも知れません<sup>し</sup>が…。

**平井** いろいろな性格の犬がいますよ。活発なものあればマイペースに探す犬もいます。そのような犬の行動は一番接しているハンドラーが分かるんだと思います。第三者が気にしてもハンドラーはその状態を<sup>ぶんせき</sup>分析していて気にしていないこともあります。ハンドラーが一番よく分かっているので、本当にスランプに落ちていきそうだったら、その前に元氣を出させるように心がけているんです。

**中嶋剛** 字にならない、言葉にならないことが多いので教えるのがとても難しいですね。

**平井** 体で犬と接しながら学んでくれっていう感じでしょいか。

**司会** ところで、麻薬探知犬は全国に<sup>はいち</sup>配置されているわけですが、センターから離れた所の麻薬探知犬の<sup>のうりよくい</sup>能力維持はどのようにされていますか。警察犬な

## 第6章 ハンドラーたちとの座談会~~~~~

どは全国大会のような催<sup>もよお</sup>しもしているようですが。  
**石塚** 実務研修という形でこのセンターにきてもらっています。ここにいる照井君もこの前は仙台にいたのですが、センターに研修にきてもらいました。成田の検査現場に出る機会も作っています。2週間程度ですが、ハンドラーと犬と一<sup>いっしょ</sup>緒に来てもらって、犬の取り扱いについての再<sup>さいにんしき</sup>認識をしてもらっています。また、人や物の多い成田で摘発できるチャンスにも恵まれます。

**司会** そのような時、摘発もあるのですか。

**中嶋剛** 今までにも、他の税関から研修で来た犬が摘発したことはあります。実務研修は応<sup>じつむけんしゅう</sup>援という意味ではなく、あくまでも犬の取り扱いについて再認識する研修の場を与えるという意味で、毎年研修を行っています。いずれの犬もこのセンターで育った犬達ですので、人間ならば里帰りして技<sup>みが</sup>を磨くというところでしょうか。

**石塚** このような交流、研修を通じて、麻薬探知犬・ハンドラーともに能力の維持向上が図<sup>はか</sup>られていると思っています。



## 麻薬探知犬に向く犬、向かぬ犬

**司会** この座談会の写真をとってくれている高崎さんから聞いた話です。富士山麓に朝霧高原があります。そこに犬を放し飼いにできるドッグヤードがあり、お金をもらってやっているそうです。いろいろな犬がきていて、もちろん犬の数より人間の数が多いのですが、そこで犬を遊ばせているのです。フリスビーをやればそれを取りにいくし、そういうフィールドなのです。2年程前に出来ています。いろんな犬種がいるのですが、リトリバー種が物を持ってくるという特性が強いのですか。

**千葉** 沢山の犬の種類は、人が作ったものです。用途別に繁殖させて改良して、また繁殖して改良します。ラブラドルとかゴールデンは持ってくるのが得意とか、あと一般で知られているボーダーコリー、コリー犬とかシェットランドシープドッグなどの牧羊犬として使用されている使役犬は目が良かったり、同じ使役犬でもラブラドルとかジャーマンポインターとかセッターなどは特に鼻を使うんです。別の種類でハウンド種のアフガンハウンドは逆に目がいいんです。人と共存できるように、用途別に改良がされてきたようです。だからといって完



全にそれに適しているというわけではないですが。  
やはり一頭々々の気質が異なったり、育ってきた生  
活環境等で違ってくる部分が大いにあると思いま  
す。

**司会** 税関を辞めても犬の専門家になれますねえ。

**千葉** いろいろ勉強しだすと歴史だとか、何故そう  
いう犬が出来上がったのかとか、調べ出すと面白い  
ですね。

一番難しいのは候補犬としてお預かりする犬を  
選ぶ際、情報のない時点で見たまわった時に自分で  
どれだけその犬のことが見極められるかです。この  
センターに連れてきて訓練に入った時の適性を見  
るのが一番難しいですね。中には一目見ただけで麻



薬探知犬になれるな、という犬もごくごくまれです  
がいます。

**司会** どうしてそういうのが分かるのですか。<sup>わ</sup>経験<sup>けいけん</sup>  
ですか？<sup>かん</sup>感<sup>かん</sup>ですか？

**千葉** 先ほどお話したように、知識も必要ですが、  
数多くの犬を見て直接取り扱<sup>あつか</sup>って肌<sup>はだ</sup>で感じるこ  
とが大事だと思います。<sup>かんかくてき</sup>感覚的な部分<sup>かんかくてき</sup>が大きいですね。  
<sup>ものおと</sup>物音を立てた時に犬がその方向を見たときに目つ  
きはどうか、立ち方はどうか、しっぽはどうか、体  
の緊張<sup>きんちょう</sup>具合<sup>ぐあい</sup>はどうか、見知らぬ初<sup>しよ</sup>対<sup>たい</sup>面<sup>めん</sup>の我々<sup>われわれ</sup>とあつ  
た時にその犬がどんな仕草<sup>しぐさ</sup>をするのか、自分で感じ  
取りながら経験<sup>けいけん</sup>を積み重ねていくことだと思いま  
す。

**司会** その犬をどこに探しにいくのですか。

**千葉** 民間<sup>あいけん</sup>の愛犬訓練所<sup>くんれんじよ</sup>や個人<sup>はんしよく</sup>の繁殖家<sup>はんしよく</sup>のところ  
へ行って1歳前後<sup>こうほけん</sup>の候補犬<sup>こうほけん</sup>を探しています。そこで  
は独自<sup>はんしよく</sup>に犬の繁殖<sup>はんしよく</sup>を行ったり、家庭犬<sup>はんしよく</sup>のしつけ教室  
のようなこともやっています。

**司会** 民間<sup>あいけん</sup>の個人<sup>くんれんじよ</sup>から愛犬訓練所<sup>くんれんじよ</sup>に申し出るこ  
とはないのですか。

**石塚** そういうこともまれにあります。家庭で飼っ  
ている犬が、大変遊び好きで麻薬探知犬に向いてい

## 第6章 ハンドラーたちとの座談会~~~~~

るのではないかと、愛犬訓練所に申し出る方もいると聞きます。

### ～ いよいよ摘発話に ～

#### 疑わしい人に「サンキュー」!?

**司会** この座談会のハイライトである皆さんの摘発の思い出話をご披露<sup>ひろう</sup>していただきたいと思います。

**照井** 現在、コンドル号という犬を担当しているのですが、前任者を含め10件以上を摘発しています。全国でも上位ではないかと思えます。私もこの犬で最初に摘発したのがやはり嬉<sup>うれ</sup>しかったですね。外国から到着した小さな貨物の検査でコーヒーパックの中にラップで巻かれ、見つからないように隠され



(司会)

ていた大麻草と大麻樹脂<sup>じゆし</sup>を摘発した時です。

**司会** ラップを通<sup>とお</sup>り抜<sup>ぬ</sup>けて臭<sup>にお</sup>ってくるということですか。

**照井** 合計で42g<sup>かく</sup>隠<sup>かく</sup>されていましたが、ラップで巻<sup>ま</sup>かれたわずかな臭いでも犬は探し出すことができます。

**中嶋厚** アグレッシブドッグを3年間使用した後に、



~~~~~

パッシブドッグの担当となり、実際に働くところで訓練をしているときの話ですが、ある外国人の足元で犬がピタッと座ってしまったので、てっきり私は訓練だと思いすぐにダミーを犬に与えてしまい、その外国人に「サンキュー」といってしまいました。インストラクターが慌^{あわ}ててやってきて「中嶋お前何をやっているんだ、何であそこでダミーやったんだ。」と言われ、私は「あれは訓練じゃないんですか。」と答えました。すると「訓練なんかじゃない。あれは犬が反応していたんだ。」ということで^{げんじゅう}嚴重^{けんさ}検査するよう連絡しました。結果的に足元に大麻樹脂をほんの少しだったのですが、^{かく}隠し持っていて摘^{つな}発に^{うたが}繋がったというエピソードがありました。疑わしい人に帽子を取って「サンキュー」というのはあまり例がないのではないかと思います(笑)。パッシブドッグを使用しての初めての摘^{うれ}発で、^{うれ}嬉しいやら^{うたが}嬉しくないやら、疑わしい人に「サンキュー」と言ってちょっと^は恥ずかしい経験をした思い出があります。

福田 今の犬で多くの摘発をしています但那の一つは、30kgを超える大麻草の摘発です。旅客が検査台の列を変えようとして私の側^{そば}を通ったのです。

第6章 ハンドラーたちとの座談会~~~~~

そうしたらいぬが反応しました。

司会 30 kg を越えるといえは携帯品では最高ではないですか。

福田 そうですね。財務大臣表彰を頂きました。

司会 おめでとうございます。

平井 私はエリス号というアグレッシブドッグを担当して6件摘発しています。やはり^{うれ}嬉しかったのは一番最初の摘発ですが、最近一番印象に残っているのを紹介しますと、エリス号は普段は目の前にあるものへすぐに行きたいという行動を取るのですが、その時に限ってなぜか奥のほうに^か駆け出して行こうとするんです。そこで「カモン！エリス」と呼んでも、どうしても行きたがるので、そのままついて行くと、奥の方にあつた小さな外国貨物に激しく反応を示したので連絡しました。検査の結果、木製の^{きわく}木枠をくりぬいて隠されていた^{たいまじゅし}大麻樹脂8.5 kgが発見されました。近年、外国から来る小さな貨物を利用して麻薬類を密輸入しようとするケースが非常に目立ちますね。

教え子の摘発が嬉しい

司会 千葉さんはいかがですか。



千葉 私はアグレッシブドックとパッシブドックの両方のハンドラーを経験しました。摘発実績としてはパッシブドックの1件だけですね。

現在、麻薬探知犬の育成の担当インストラクターとして、仕事をしていますが、やはり自分が育成訓練で育てあげた犬と訓練生が全国で活躍してくれることが嬉しいですね。4ヶ月間の訓練が終わり麻薬探知犬と認定されても、今までやった訓練が果たして正しかったのかどうか、不安になることもあります。ですからここで訓練を終えた犬たちが摘発してくれることが、自分がやってきたことが正しかったかどうか、ある意味答えを出してくれますし、自信にも繋がります。

司会 他の分野にも通用しそうな、随分奥行きのある話ですね。

千葉 麻薬探知犬に限らず、使役犬の訓練は非常に奥の深いものがあると思います。同じ犬種の犬で



第6章 ハンドラーたちとの座談会~~~~~

もそれぞれ個性を持っていますから、一頭々々訓練の方法も少しずつ違ってきますし、その犬を使う訓練生も一人々々個性がありますので、指導する側も犬と人の両面を見ながら訓練をしなければなりません。訓練は大変ですが、やはり自分が教えた訓練生や犬が摘発して答えを出してくれるのが一番嬉しいですね。

パッシブドッグ摘発第1号は

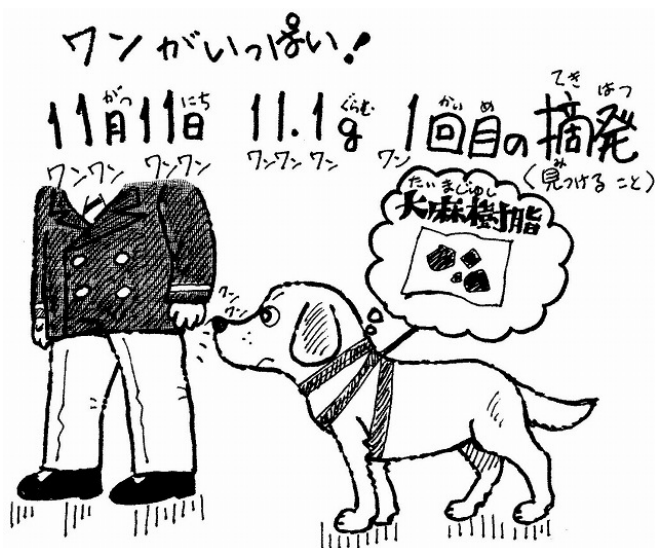
11月11日 11.1g たいまいじゆし 大麻樹脂

中嶋剛 私は 1992～3 年にかけての 1 年半位しかハンドラーの経験がありません。すぐに、座るタイプのパッシブドッグのインストラクターになりました。その 1 年半の間、初代のパッシブドッグ 3 頭のうちの 1 頭を担当しました。1993 年 7 月 31 日にパッシブドッグの導入が報道発表されて華々しくデビューしましたが、数ヶ月間摘発がありませんでした。どうなっているんだという厳しい目を背中に感じながら、毎日憂鬱な気持ちになって検査していた最中でした。航空会社の乗務員 4 名が税関検査台



へ向^むかおうとしていたのでその後を担当犬^{たんとうけん}と共に
ついて行くと、税関の検査台前で話をしていた一人
の乗務員のポケットの辺^{あた}りを熱心^かに嗅ぎ、離れよう
としなかったので、「何かおかしい」と思い、検査を
お願いしたところ、ジャケットのポケットに大麻^{たいま}
樹脂^{じゅし}11.1 gを隠し持っているのが発見されました。

また、何かのめぐりあわせなのか、その日は 11 月



11 日で全て 1 (ワン) 並^{なら}びというめでたい日になりました。
摘発された次の日は報道発表^{ほうどうはつぴょう}で大騒ぎ^{おおさわ}になりました。
パッシブドック日本初^{にほんはつ}の摘発^{てきはつ}！となった
のでした。摘発した時は、トイレへ行ってガッツポ

第6章 ハンドラーたちとの座談会~~~~~

ーズをしました。帰宅して、アメリカでお世話になったインストラクターに国際電話をして「摘発したよ。」と報告したら、「おめでとう！」と自分のことのように喜んでくれました。その時初めて感動して涙が出てきました。同期のインストラクターたちもいろいろ^{なや}悩みを持っていましたし、彼らから「おめでとう」と言われた時はほんとうに嬉しかったですね。

その後も2件ほど摘発することができました。ハンドラーとしてもっと摘発に貢献したかったのですが、その^ご後はインストラクターとしてここにいる千葉君や中嶋厚君、そして福田さん達を教えていくこととなりました。今は、教え子達が摘発してくれることが一番の喜びになっていますし、僕自身は最初の摘発が麻薬探知犬人生の始まりだったし、あの感動がなかったら続けていなかったかもしれません。

犬から教わる…^{はんのう たんじゅん}反応は単純じゃないヨ

司会 それでは最後に石塚さんの話を伺います。

石塚 1979年に麻薬探知犬が導入され翌'80年2月に麻薬探知犬担当に^{はいぞく}配属されました。アメリカから



導入した4頭の麻薬探知犬は1979年6月と'80年2月に到着しました。1980年から既に国内における麻薬探知犬の育成が計画されていたので、アメリカから導入されたユーコン号という犬を配属後間もなく引き継ぐことになりました。当時、麻薬探知犬が導入されればすぐにでも摘発できると期待されていたのですが、なかなか摘発できませんでした。そんなプレッシャーの中、3ヶ月間の訓練を終了し、現場デビューして2ヶ月経過した1980年7月に摘発することができました。

当初の麻薬探知犬のイメージは、麻薬類を感知すれば、必ず引っ掻いたりして知らせてくれるものだと思っていました。私が摘発したのは大麻2.3kgだったのですが、その時は、犬は攻撃したり引っ掻いたりしなかったんです。荷物を運ぶコンベアベルトで検査していたら鼻をぴたっとくっ付けたままベルトの上を流れて行くんです。もう一度やり直してみても、結果は同じでした。普段このような行動をすることがなかったので、不思議に思い検査官に連絡して摘発することができました。それからは犬の行動や反応に対する見方が変わりました。

司会 どう変わったのですか。

石塚 はじ

めは訓練の
とおりに引
つ掻いて知
らせてくれ
るものだと
思っていま
した。この
摘発をきっ
かけに、犬



も人間と同じように、迷うこともあるんだなと^{かん}感じ
ました。その迷ったときにハンドラーがどのように
手助けしてその状況をどのように感じ取るかが必要
なのだと思います。それからは犬のわずかな変
化も見逃さないようにしてきました。

司会 外から活字で読んでいるのとプロの方の実
際の話とでは大分違^{だいぶん}いますね。我々は簡単にアグレ
ッシブドックとパッシブドックに分けて考えよう
としますが。犬のちょっとした仕草^{しぐさ}からハンドラー
の方は感じ取るんですね。日頃からの親和^{しんわかんけい}関係を持
ち続けてこそ、人間と犬との細^{こま}やかな気持ちを感じ
ることができるんでしょう。奥が深いですね。



麻薬探知犬の活躍 世界への広がり

司会 麻薬探知犬は日本の場合、1979年にアメリカの指導を受けたのが始まりですが、現在は麻薬探知犬は世界中に広がっております。日本もこの麻薬探知犬訓練センターは世界に^{ぎじゅつしどう}技術指導を行っていると聞きましたが、その主役的立場の中嶋剛さんから世界の麻薬探知犬のことなどを話していただけないか。

中嶋剛 世界には何百種類という犬がいるといわれています。世界で活躍している麻薬探知犬は約2千頭から2千5百頭くらいいると思われます。国の数としては30カ国ぐらいで麻薬探知犬を使っているのではないかと思います。麻薬類を探知してハンドラーに知らせるタイプとしては、座って知らせるパッシブタイプと前足で引っ搔くアグレッシブタイプの2種類のタイプが主です。1970年代後半くらいから^ひ引っ^か搔くアグレッシブタイプが^{しゅりゅう}主流でした。犬種としては、シェパードが主でアメリカ、ヨーロッパが先進国でした。その後1980年代後半くらいから、麻薬を体^まに巻きつけて密輸する人が増えてきたこともあって、アメリカ・ヨーロッパで^{すわ}座るタイプの犬が出てきました。我が国では1979年

第6章 ハンドラーたちとの座談会~~~~~

にアグレッシブタイプの麻薬探知犬をアメリカから^{どうにゆう}導入して、1993年にはパッシブタイプの麻薬探知犬を^{どうにゆう}導入しました。

パッシブタイプの犬はもともとアメリカ・ヨーロッパで爆発物を発見する犬として^{かいはいつ}開発されたものです。爆発物等を引っ搔いてしまつては大変なことになるので、引っ搔かずに座って知らせる訓練方法を採用したのです。

世界の税関の中で最も多くの麻薬探知犬を使用しているのはアメリカで約700頭の麻薬探知犬を持っています。ヨーロッパはやや少なめで2～3百頭程度です。税関以外に^{しえきけん}使役犬として犬を多く持っているのは警察犬や軍用犬だと思います。警察犬は^{きゆうでん}バッキンガム^{じょおうへいか}宮殿とか女王陛下の^{けいご}警護もしていますし、アメリカでは^{だいてうりょうけいご}大統領警護のためにシークレットサービスやFBIも犬を使用しています。珍しいところではATFといってアルコール・タバコ・ファイアーアーム^{とりしまりきょく}取締局といったところが犬を^{そうさ}捜査に使用しています。さらには、FAA航空局が麻薬に限らずテロ対策として爆発物発見のために犬を使用しています。

犬種ではシェパードが一番多いのではないかと思



います。

司会 ラブラドルでなくてシェパードが多い^{おお}のですか。

中嶋剛 そうですね、警備^{けいび}、警戒活動^{けいかい}には見た目にも恐^{こわ}そうな犬が向いているのでしょうね。シェパードがやはり主流です。ラブラドルは使役犬^{しえきけん}としての歴史もまだ浅く、例えば日本に初めてラブラドルがきたのが 1978 年です。まだ 27 年程度です。

世界の麻薬探知犬の活動場所は、国際空港・海港・国際郵便局が主ですね。

世界のご褒美^{ほうび}は いろいろ

司会 ご褒美^{ほうび}は国によって違うのですか。

中嶋剛 日本だと綿製^{めんせい}のタオルを硬く巻^{かた}いたダミー^まと呼ばれるものを使用します。犬が麻薬類を見つけ出すと褒美としてダミーを犬に投げてやり、啜^{くわ}えたらハンドラーは綱引き^{つなひ}をして遊んであげます。綱引きのことを英語でタグオブウォー(tug of war)といいます。外国では、ボールペンを少し太くしたメタルのパイプ、プラスチックのパイプ、それから鉄のガス管に使っているようなメタルパイプ、アルミのパイプ等を褒美として使っているところもあり

ます。

司会 そんな硬いものでどうして遊ぶんですか。

中嶋剛 硬いものを与えて日本のように綱引きをするわけではありません。一般的に犬は木の端^{はし}だろうが、石だろうが持ってきてその行為に対して褒められるということが嬉しいのです。それを与えられたということが犬にとっては最高の褒美になるのです。

^{きゅうじょけんなど}救助犬等はよくテニスボールを使います。アメリカの爆発物探知犬には餌^{えさ}を与えています。見つけました。座りました。そうしたら餌を与えるというわけです。ゴムでできたラバー製のおもちゃ^{あた}を与えることもあります。軍用犬の褒美は、物としての褒美ではなく、体をやさしくなでてあげたり、言葉で「よし」というだけです。

^{もうどうけん}盲導犬などはその良い例で、褒美はなにも与えていません。体をやさしく触ったり、言葉



(イギリスの麻薬探知犬)



で褒めるだけで十分に親和関係を深めているのです。

司会 だから検査場で大きなふるまいをしなくてもいい訳ですね。



中嶋剛 日本の場合、タオルのダミーを使っています、タオ

(ご褒美のプラスチックパイプ)

ルの^{かんしよく}感触が良いのでしょうか。パイプを引っ張り合^{いた}いすると歯を傷めることもありますから。

日本は先生役に… 世界で活躍中

司会 日本の麻薬探知犬はアメリカから指導を受け、立派に成長し成果を挙げています。この麻薬探知犬訓練センターでは、麻薬探知犬の後進国に対して、指導の立場で^{こくさい}国際協力をしていると聞きましたが、どんな国にどのような事をしているのですか。

石塚 麻薬探知犬の分野で技術協力を行っています。外国からこのセンターに来て 2～3 週間の研修を受けたり、また、こちらから海外へ出かけて直接

第6章 ハンドラーたちとの座談会~~~~~

指導する場合があります。この研修は、1990年から毎年行われていますが、2004年までに15ヶ国※から100名以上の研修生が来ています。

また、外国へインストラクターの派遣はけんもしています。2004～5年にかけてインドネシア・ケニア・カザフスタンへインストラクターを派遣し現地で指導にあたりました。国によっていろいろと事情が違いますが、一つ一つ問題を解決しながら、援助えんじょ、指導をしていかなければいけないと思います。今後も、麻薬探知犬訓練センターといたしまして積極的な協力を通じて麻薬探知犬の発展に貢献できるようにしたいと思います。

おわりに

司会 石塚管理官かんりかん、最後に一言お願いします。

石塚 そうですね。私がハンドラーとして麻薬探知犬に係わり始めてから、4半世紀はんせいき（25年）が過ぎました。当初は麻薬探知犬の頭数も少なく、摘発は珍しいものでした。それだけに関係者のストレスもありました。いろいろな経験や勉強を重ねて、今では、

※ かんこく 韓国・中国・香港・モンゴル・フィリピン・マレーシア・インドネシア・ベトナム・インド・ケニア・モルジブ・ウズベキスタン・カザフスタン・ロシア・ミャンマー



我が国独自で麻薬探知犬の育成訓練を行い、全国に麻薬探知犬を置くことができるまでの規模に成長し、毎年年間 100 件を越える摘発実績を残せるようになりました。また、世界の多数の国々の麻薬探知犬育成の指導にも貢献しています。

麻薬や覚せい剤の密輸入は社会不安や人間の身も心も蝕む^{むしば}罪悪^{ざいあく}です。日本国内で乱用されている麻薬類はほとんど密輸入です。これらに対しては水際で止めるのが最も効果的です。そのためにも若いハンドラーとパートナーである麻薬探知犬達が、麻薬類の密輸入を止めることができるように日々頑張っていると思います。



（座談会ならではの麻薬探知犬
についての知らない話をいっぱい
紹介していただきました）

司会 長時間貴重なお話を聞かせていただくことができ大変勉強になりました。ハンドラーの方々の^{かたがた}苦しみや、喜び、また、犬との^{しん わかんけい}親和関係を増していく方法などをご披露いただきました。さらには日本の麻薬探知犬を育てる水準が世界を指導する^{たちば}立場にまで^あ上がって現在は麻薬探知犬の後進国を指導していることなどもわかりました。日本の平和と安全に^{ますます}貢献するため今後の益々のご活躍をお祈りしています。

お忙しいところどうもありがとうございました。

(おわり)

